



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2022年
8月19日
発行

第144回

「米国株式市場見通し」

～ゴールドマンCEO発言の裏を読む～

初めに

前回に引き続き、米国株式の見通しをお話しします。自分は一旦落ち着きを取り戻す可能性はあるとみていますが、今回のバブルの傷跡は大きく、そのため正常化にはまだ時間がかかる、との見通しです。投資家の間でも強気弱気で意見が分かれています。そうした中、8月11日付けの日本経済新聞に、先ごろ来日した米国の大手投資銀行ゴールドマン・サックスのデービッド・ソロモンCEOのインタビュー記事が掲載されました。この記事の中で、ソロモン氏は米国の金融システムの安全性を強調しました。

米国の金融システムは大丈夫か

このソロモン氏の発言から米国の金融システムは大丈夫と思う方もいらっしゃるでしょうが、自分はそうは言えないと思います。リーマンショック以降、米国の銀行システムに対する監視が強化されたのは事実です。先日も、米国の大手銀行が当局による健全性の審査をクリアしたとの報道がありました。

リスク資金は銀行からファンドへ

にもかかわらず、自分が米国の金融システムに懸念を持つのは、多くのリスクマネーが規制を嫌って銀行ではなく規制の少ない「ファンド」という形を取るようになったためです。ファンドと言っても明確な定義はありませんが、今回の決算で巨額の赤字を計上したソフトバンクも日本企業ですがこのファンドを多用しています。

仮想通貨にも警戒が必要

さらに、警戒が必要と思われるのがビットコインなど仮想通貨です。米仮想通貨業界大手コインベース・グローバルの2022年4-6月期決算は約11億ドルの赤字でした。ビットコインなど仮想通貨の相場低迷によるものです。

ゴールドマン、実は弱気？

以上の要因から、自分は米国株について短期的な回復はあっても本格的な株価上昇はまだ先とみていますが、ここで、ソロモン氏が楽観的とも思える見方を取っている理由を考えてみました。ソロモン氏の狙いは、あえて日本のマスコミに楽観的なシナリオを提供することによって日本から新しい資金を呼び込み、それを米国市場のカンフル剤にする、ということではないかと思えます。日本では、証券会社のトップが公の場やマスコミを通じて金融政策や株式市場についてコメントすることはあまりありませんが、米国では珍しくありません。新型コロナによるパンデミック発生時に、投資銀行のトップなどが政府や中央銀行に対し、これだけでは足りないと言って多額の資金を引き出したことは記憶に新しいところです。よって、ソロモン氏のコメントは本音ではないと思われ、米国株の正常化にはまだ時間がかかるとみられます。



チーフストラテジスト
門司さんにきいてみよう!



西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等はご遠慮ください。